



Try! up!

Vol. 17 [2015年9月20日発行]

これからの看護

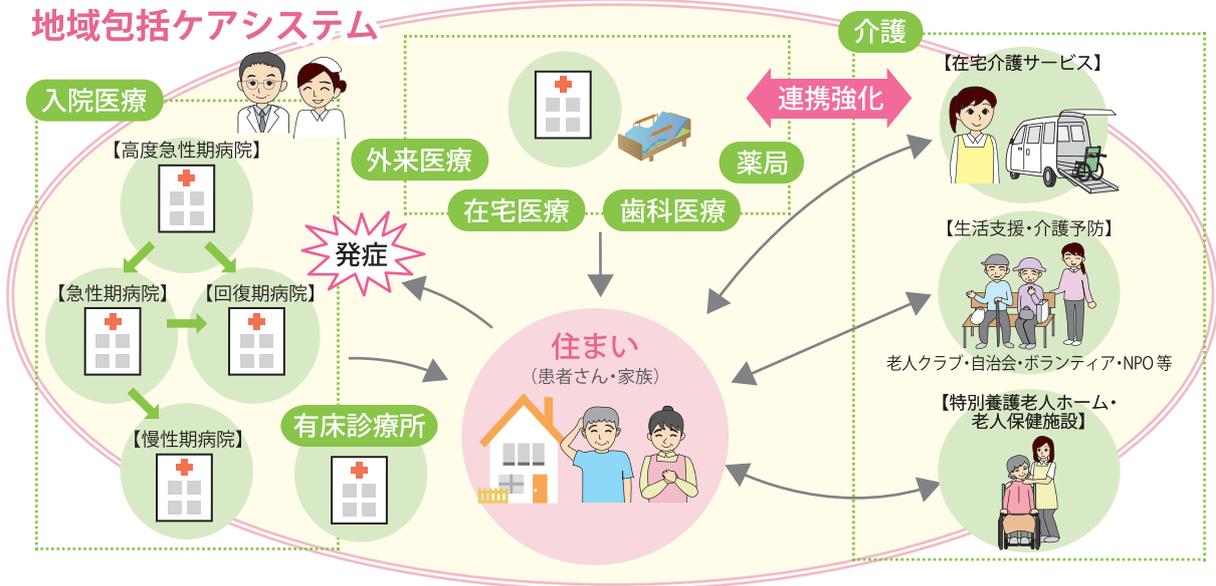
2025年、わが国は超高齢社会を迎えます。高齢化の進展に伴い、慢性疾患や複数の疾患、手術後のリハビリなど、医療施設での療養だけでなく、自宅で暮らしながら医療を受ける患者が増えることが予測されています。この事態に備えて、昨年、「医療介護総合確保推進法」が公布され、医療提供体制の改革が始まりました。今後は、「地域包括ケアシステム」が整備され、患者は早期に社会復帰し、地域で医療を継続しながら生活を送れるようになります。医療は、高度急性期から慢性期までの医療機関の機能分化や在宅医療を推進し、医療機関に入院して受療する病院完結型から、地域完結型へと転換していきます。

急性期医療の場合では、集中的な観察と的確なアセスメントを行い、緊急・重症な患者の生命を守る必要があります。また安全に医療が提供されるよう他職種と協働します。回復期では、自立した生活が送れるように理学療法士などと連携してリハビリを行うとともに、退院支援が必要です。慢性期では、在宅復帰に向けて退院計画を作成し、状態の悪化予防やセルフケア能力を向上できるよう、服薬や栄養指導、リハビリ指導を行います。

介護施設では、利用者の介護度が上がり、継続して医療を必要とする人が増えます。介護職との連携のもと、健康状態を把握し、必要な医療を保障しながら生活の質を重視した看護が求められます。診療所は地域医療を担い、療養者と家族が望む生活を実現するために、病状の管理、自立支援、家族のセルフケア能力への支援が必要となります。

このように、2025年に向けて地域全体の医療・看護連携が進められています。地域は人々の暮らしの場であり、看護は、どのような疾病や障がいがあっても、その人らしく暮らせるように生活を支援します。自分がどのような場でどのような対象と関わっているのかを認識し、専門職として生活と医療を統合させた看護の視点を持ち、医療的な判断が適宜的確にできること、また、その人らしい自立した生活を考えたケアが提供できることが求められています。

地域包括ケアシステム



私たちがバックアップします！ 医療の現場から

第7回 山形ロイヤル病院

本校創立から延べ8名もの
職員の入学を果たした、山形ロイヤル病院。
忙しい日常業務の中で、
どのような視点や手法で
職員の「学習」をバックアップしているのか、
どのような思いで職員を送り出したのか、
丹野宏美看護部長にお話を伺った。



丹野宏美
看護部長

准看護師から看護師を目指す、 この養成システムについて思うことを お聞かせください。

私自身、別の病院で勤務していたころから、対象者に積極的に勧めてきた経緯があるくらい大賛成のシステムです。

准看護師は資格取得までの期間が短いため、どうしても教育内容の理解が不十分なまま資格取得に至ってしまうケースがあるのは事実。そして、そのまま長年勤務を続けていく過程で、本人自身が自分のアセスメント能力の不足を痛感する場面に遭遇することが多々あります。そうした日常の中で、この養成システムは、准看護師にチャンスと一歩踏み出す勇気を与えてくれます。

看護部長という役割以前に、一人の先輩看護師としても、私は、せっかく何かを気づき始め「このままでいいのだろうか…」と悩んでいる准看護師の背中を押してあげたいと強く思っています。

職員の方は学校に通い始めると、 何か変化はありますか。

学生である期間は課題や実習に追われて、周囲から見ても大変さが伝わってきます。でも、国家試験合格後には、その苦労は大きな成長に結びついてくるのです。

准看護師から看護師になり、何より業務への視点が確実に変化します。これまで行ってきたケアが知識と統合されているので、自信を持って向き合えるようになるのです。そうした姿を見ているので、周囲も自然と協力体制になっていくのだと思います。

当院では、がんばる職員には奨学金制度を整備したり、シフトも各現場で調整して、病院全体で職員が学習に集中できるようバックアップ体制をとっています。その結果、「私も学びたい！」と後輩たちの意欲も高まり、いい循環の形ができあがっています。

東北福祉看護学校に通う職員の皆さんに 期待することは。

当院は療養型の病院のため、患者さんの中には意思表示ができてくれない方も多くいらっしゃいます。それでも患者さんを中心に考えられる、寄り添える看護師になってほしいと思います。自分たち本位ではなく、もう一歩考えを深められる看護師…。いま、学んでいることも、その先は「人」へとつながっていることをぜひ意識してください。

看護師の学びは国家試験合格で終わりではありません。ずっと続く学びの中で、人としてどう接するか、「感性」を大切に患者さんと向き合っていってほしいですね。

医療法人社団 明山会

山形ロイヤル病院

山形県東根市大森2丁目3-6



山形県の北村山地区を中心に、主に一般(急性期)病院を退院した亜急性期から慢性期の患者や、在宅医療や介護施設では対応困難な医療行為を必要とする患者を対象としている療養型病院。

「療養型病院は診療の場であるとともに生活の場でもある」という認識に立ち、できる限り快適な療養環境が提供できるように努めている。

躊躇せず、 まずは飛び込んでほしい

三浦宗徳さん(30代)
新妻がおりさん



准看護師から看護師になったいま、本当に充実した日々を送っています。院内の委員会への参加やスキルアップの研修など新しい体験や学びが楽しくて仕方ないのです。

在学中は仕事と学びの両立で正直大変でした。しかし当院で、学校に通う先輩から後輩へ引き継がれる「学習のコツ」のようなものがあつたことと、看護師になった先輩の姿を間近で見ていたことで、自分の将来も描くことができました。あの時ががんばって乗り越えられたからこそ、今があるのだと思います。

これから入学を考えている皆さんには、躊躇せずまずは飛び込んでほしいと思います。その先の濃厚な日々は必ず実を結ぶものだと、私は確信しています。

先輩の姿が 未来の自分に…

高橋かつ江さん(40代)
三浦紗由里さん(30代)



私には高校生を筆頭に、4人の子供がいます。一番下の子が保育所に入る年齢になったこと、病院が奨学金を出してくれること、周りの理解とバックアップをもらえること…さまざまなタイミングが一致し本校への入学を決意しました。

これまで、学校に通う先輩方の大変ながらもいきいきとしている姿や資格取得後の活躍に憧れ、「いつか自分も！」と触発されていたのです。学校に通うようになってからは、先輩方は心強いサポーター。病院全体でいろいろな場面で手を差し伸べてくれます。

職場や家族みんなの優しさを力に変えて、国家試験合格を目指していきたいと思っています。

貴重な時間を実りあるものに…

実習先のホンキ 10

～仙台赤十字病院～

2年間の学びの中でも重要な位置を占める「見学実習」。限られた時間の中で、どれだけ多くのことを吸収できるか、そして日々の学習にどう結びつけていくかが問われるカリキュラムである。ここでは、学生に充実した学びを与えてくださった「仙台赤十字病院」の実習受け入れに対する体制や考え方を紹介したい。

赤十字の精神である「人道・博愛」を実践し、医療を通じて全ての人の尊厳をまもることを理念に、高度で先進的な医療を広く提供している仙台赤十字病院。看護師はもちろん、助産師や養護教諭など幅広い学生の実習を受け入れている。多くの実習生を受け入れている当院の実習に対する考え方、学生に何を学んでほしいと期待しているのかお話を伺った。

「**当**院では長い歴史の中で、実習に対する指導者のあり方や受け入れ体制の整備を積極的に行ってきました。実習を受け入れることは、指導者自身の学びにもつながっています。特に最近は“ティーチング”から“コーチング”へとその手法も変わり、一方的に教えるのではなく、導き引き出す指導を行っています」と、増子はるみ看護部長は語る。この考え方が病院全体に広がり、教育という側面だけにとどまらず、現場などでもそれぞれの人が持っている「潜在能力」の開発につながっているのだと痛感する。



本校の学生について、小児担当の武田智子看護師長は「皆さんとてもエネルギーが溢れてびっくりしました。目的意識が明確で、学ぶ姿勢と意欲がしっかりしていたので安心して受け入れることができました」との印象。母性担当の佐藤貞子看護師長からは「臨床をよく知っていてポイントも理解している皆さんなので、これから知識とどう結びつけて統合できるかが重要なカギとなりますね」と、現場での学生の姿を思い起こしながらのアドバイスをいただいた。また、母性と小児というライフステージに関わる領域ということもあり、両師長の「この実習では学びはもちろんですが、人それぞれ“非日常”を味わってリフレッシュしてほしいですね」との言葉からは、ただ学ぶだけではない、実習のもつ役割や奥深さが感じとられた。

最後に増子看護部長から「人はいくつになっても成長します。働きながら学ぶことはとても大変ですが、働きながらだからこそ気づく視点もあるはず。ぜひがんばって、国家試験に臨んでほしいと思います」と、険しい道のりの中でも、物事をプラスに昇華させるヒントをいただいた。

「押し付け」ではなく、導き引き出すから



山家真弓さん
(宮城県・50代・クリニック勤務)

仙台赤十字病院では、母性看護学と小児看護学の見学実習をさせていただきました。どちらも専門性の高い領域ですが、もともと興味がある領域だったのでスムーズに実習に入ることができたように思います。紙上事例で学んだことが、現場の実習によって理解が深まっていくことを体感できる重要な学びの機会でした。

特に印象的だったのは、指導者の方々の対象の方へのかかわり方です。「こうしなさい」などの押し付けではなく、対象に寄り添い、見守りながら導き引き出すかかわり方は、患者さんに対しても学生である私たちに対しても終始変わることなく、そこには相手を尊重し信じる力を感じました。その姿勢は、看護師同士の関係にも反映されており、若い看護師もキャリアを重ねた看護師も同じ場で、さまざまな意見交換がなされていました。年齢や性別による壁などなく、自由闊達に意見を言い合える姿は学ぶものが大きかったですね。こうした現場でしたので、私たちものびのびと実習を受けることができました。

実習を通して学んだことを力に変えて、国家試験の勉強へと取り組んでいく日々がいよいよ始まります。私は、看護師という職業はずっと学び続けていくものだと思っているので、国家試験はその「第一歩」です。立ち止まることなく、地域の人たちの医療に貢献できる看護師を目指して日々がんばっていききたいと思います。



武田智子 看護師長
増子はるみ 看護部長
佐藤貞子 看護師長



仙台赤十字病院

宮城県仙台市太白区八木山本町
2丁目 43-3

赤十字の基本精神「人道・博愛」のもと、政令指定都市・仙台の医療を支える機関として、多くの市民に利用されている。また、宮城県指定の総合周産期母子医療センターの運営をはじめ、多くの治療困難な病気に対して高度先進的な診療を県内外の患者へ広く提供している。

模擬試験で実力確認を

国試対策係 倉林恵子 先生

2年生の皆さんは臨地実習が終盤になり、1年生の皆さんは基礎看護学実習が開始しました。国家試験では、「実践で求められる基礎的な知識や技能を用いた応用力及び判断力」を問うとされています。臨地実習で、皆さんの場合は、今までの臨床経験を生かして、看護援助の判断の根拠や実施の方法を学習することができます。多くの学びを得ていることと思います。

さて、第105回看護師国家試験の実施日が平成28年2月14日(日)と決まりました。2年生の皆さん、あと5ヶ月です。

今年度も4月～5月に国家試験オリエンテーションと第1回目の対策講座を行いました。専門基礎分野の「人体の構造と機能」「薬理学」、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野の講座で、受講率は平均約62%でした。

続いて、模擬試験を2回行いました。第1回目は、国家試験の得点率が低い「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」で、受験率は約85%、第2回目の「必修問題」は87.5%でした。皆さんの手元に結果が返送されていますので、きちんと見てください。誤答肢については、なぜ誤っているかを確認してください。特に平均正答率が高い問題を誤答したところは自分の弱点ですので、補強して学習してください。

今月下旬に受験予定の、第1回看護師国家試験模擬試験は、全国の多くの看護学生が受験しますので、その中で自分の実力の確認ができます。必ず受験しましょう。

さあ、皆さん、後半も対策講座、模擬試験等国家試験対策スケジュールに沿って着実に実力を積み重ねていきましょう。

1年生の皆さんは、前期の定期試験が終わったところです。レポート課題や紙上事例の学習等に取り組む中で基本的知識として何が大事なのかが分かってきていると思います。7月に実施した第1回の「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」の模擬試験の受験率は約80%でした。これらの内容は看護師国家試験の一般問題の2割くらい出題されます。模擬試験の結果を振り返り、弱点を早期に補強しましょう。受験しなかった40人くらいの方々、模擬試験は重要です。

ところで、第104回の看護師国家試験の出題では、読解力が求められる問題が増加しました。一般問題の出題の中に3～6行の長い問題文が2割近くありました。これは、問題を読解してアセスメントする能力を評価する出題です。短時間で読み解く力を日頃から心がけておくことが対策につながります。何が問われているのかをきちんと判断できるように、日頃の学習を積み重ねることが国家試験の合格につながります。

読解力



データで見る
東北福祉看護学校

Data Of TFNS

● 在校生データ

2015年4月現在のデータです。

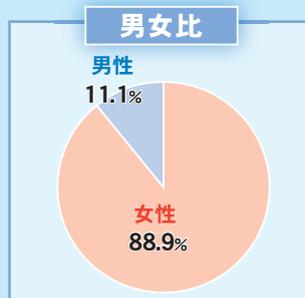
◆ 年代比

全国の年代比は、40代以上が56%・30代は44%(H25調査)となっており、本校も全国とほぼ同様の傾向にあります。



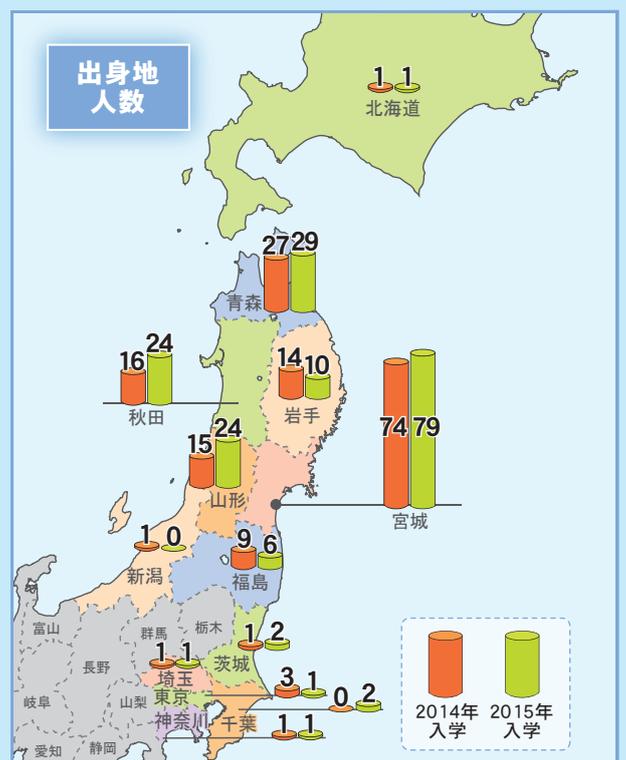
◆ 男女比

全国的に男性の看護師および看護学生は増加の傾向。これまでの本校の平均と比較しても、男性の学生は、ある一定の割合(1割程度)で保たれています。



◆ 出身地人数

東北地方在住者が中心の構成となっています。特に今年度は、秋田県と山形県からの入学者が大きく増加しました。



勉強のコツは、 楽しみながら頑張りすぎないこと!

2015年入学

緑川祐美 さん (宮城県・30代・クリニック勤務)

入学から約半年が経ちますが、もともと学ぶことが好きな私にとって、学生生活は最高ですね！新しい知識をどんどん吸収し、学校から出されるレポート課題や紙上事例を進めていくことに達成感を感じています。

また、さらにやる気を出すために、参考書に手作りのカバーをかけて、かわいい付箋紙を貼り、勉強が楽しくなるような工夫もしています。参考書には、本校での授業・国家試験・放送大学それぞれから出題されたところを色分けしてマーカーしています。マーカーが重なったところは、特に重要なポイントとして効率的に復習することができるのです。



また、30分に一度は休憩を取ったり、気分が乗らない日は無理に勉強しようとせず、水泳や映画を見



て気分転換をしたり…。頭や気持ちをつまくりセットしながら、あまり気負いせずに取り組むことが勉強を継続するコツかもしれませんね。

勉強を始めて半年。日々の仕事の中でも大きな変化を感じています。これまでは、目の前の仕事をいかに素早く対処していくかということに注力してきました。しかし、「看護師」として本当に重要なことは、患者さん一人ひとりとしっかり向き合い、その背景や想いを大切にしながら、苦痛の原因を考え取り除いていく、『心のケア』なのではないかと考えるようになりました。

これからまだまだ勉強の日々は続きます。たくさん気づきや学びを得ながら、私の目指す「看護師」像を明確にしていきたいと思っています。まずは国家試験合格を目標に、今できることは後に残さず、毎日を全力で過ごしていきたいと思います。



学校を最大限に活用して

2014年入学

日山寿枝 さん (宮城県・30代・病院勤務)

長年准看護師として働く中で感じてきた看護師との違いの数々。それは、単純に知識だけではなく看護をする上での発想や患者さんに対する提案等多岐にわたり、同じことができない准看護師の自分に、もどかしさを感じていました。

そこで一念発起！入学を決意したのですが、通信制ということもあり勉強時間の確保は自分次第。私の場合職場が3交代制なので、準夜勤明けに眠気を堪え朝まで勉強するなど、意識して学習時間の確保を心がけています。

そんな私の強い味方は、さまざまな誘惑を遮断してくれる本校の「自習室」。今年4月「仙台駅東口キャンパス」に学校が移転し、通いやすさも格段にアップしたこともあり、頻りに利用しています。分かりやすい資料が揃っており効率よく学習できるので、使わない手はないですね。また先生方が隣の部屋にい

らっしゃるので、学習に関してはもちろん、時にはプライベートな相談に乗っていただくことも。学校そして先生方の存在が大きな心の支えになっています。

2年課程もあつという間に4分の3が過ぎ、履修する課題も残りわずかとなりました。これまでを振り返ると、夢中で突き進んだ中でも自分の看護観を刺激された出来事の多さに気づかされます。特に実習ではそれらが目白押し。数値では見えない患者さんの「状態」や「思い」などを五感を研ぎ澄まして汲み取り、信頼関係を築いていく…。そんな指導担当の方を見て、今後自分が行いたい看護の方向性が少しずつ見えてきたように感じます。

理想の看護師になるためにも、まずは第1の関門「看護師国家試験」をクリアしなければなりません。これからその対策にも本腰を入れ国家試験対策講座などにも積極的に参加し、合格に向かってまい進したいと思います。

学校からの お知らせ掲示板

● 第105回看護師国家試験の 施行日が決定しました。

厚生労働省からの8月1日付文書によると試験日は
平成28年
2月14日(日)と決定しました。

今後は卒業要件である科目履修と国家試験対策に向けて、これまで以上に学習時間絶対確保と内容理解が重要になります。
一つひとつ確実に取り組んでください。
併せて、国家試験受験手続について間違いなく進める事が重要課題です。

● 「学習支援」の予定

本校では、専任教員による学習支援を開催しています。学生の皆さんが円滑に学習を進められるようサポートしていきたいと思っておりますので、是非、この機会を有効に活用してください。
内容は、レポート課題や紙上事例演習、国家試験対策、放送大学の科目の勉強に関する事などになります。
内容(相談)に関するレポート、書類、テキストなど持参してください。

日時	会場	教員担当
10月11日(日) 10:00~12:00	(山形) 放送大学 山形学習センター	中里
11月15日(日) 10:00~12:00	(福島) 南相馬市 情報交流センター	白井
11月29日(日) 10:00~12:00	(秋田) 放送大学 秋田学習センター	佐々木
12月13日(日) 10:00~12:00	(宮城) 東北福祉看護学校	中里

● 校舎休館のお知らせ

【休館日】12月2日(水) 終日

校舎の電気点検(終日)のため仙台駅東口キャンパスは全館休館となります。
自習室も利用できませんのでご了承ください。

スケジュール



1年生【学籍番号が“15”で始まる学生】

教育課程

- ①「基礎看護学」見学実習後面接授業
日程:【1回目】9月27日(日)・28日(月)
【2回目】10月4日(日)・5日(月)
【3回目】10月18日(日)・19日(月)
場所:1日目/国見キャンパス* 2日目/仙台駅東口キャンパス
*「学生便覧」で確認してください。
- ②「精神看護学」紙上事例演習1提出
10月1日(木) 必着
- ③「精神看護学」見学実習前面接授業
日程:【1回目】11月5日(木) 【2回目】11月7日(土)
【3回目】11月9日(月)
場所:仙台駅東口キャンパス
- ④実習オリエンテーション
日程:11月8日(日) 10:00~16:30頃
場所:仙台駅東口キャンパス
- ⑤レポート課題提出
科目:「小児看護方法」「母性看護方法」「在宅看護方法論」
「看護管理」「災害看護」
10月5日(月)~10月22日(木) 必着

2年生【学籍番号が“15以外”で始まる学生】

教育課程

- 見学実習後面接授業(場所:仙台駅東口キャンパス)
- 成人看護学 【1回目】10月1日(木)・2日(金)
【2回目】10月23日(金)・24日(土)
【3回目】11月13日(金)・14日(土)
 - 老年看護学 【1回目】9月14日(月)・15日(火)
【2回目】10月12日(月・祝)・13日(火)
【3回目】10月31日(土)・11月1日(日)
 - 小児看護学 【1回目】9月16日(水)・17日(木)
【2回目】10月9日(金)・10日(土)
【3回目】11月11日(水)・12日(木)
 - 母性看護学 【1回目】9月18日(金)・19日(土)
【2回目】10月15日(木)・16日(金)
【3回目】11月16日(月)・17日(火)
 - 在宅看護論 【1回目】9月29日(火)・30日(水)
【2回目】10月25日(日)・26日(月)
【3回目】11月18日(水)・19日(木)
 - 看護の統合と実践 【1回目】10月6日(火)・7日(水)
【2回目】10月21日(水)・22日(木)
【3回目】11月20日(金)・21日(土)

国家試験対策

- 国家試験対策講座(場所:仙台駅東口キャンパス)
- 12月16日(水):基礎看護学・成人看護学
 - 12月17日(木):老年看護学・小児看護学・精神看護学
 - 12月18日(金):母性看護学・在宅看護論・看護の統合と実践

